

2月10日のウクライナ情報

安齋育郎

①ロシア軍、ウクライナでの戦闘ほぼ成功 国防相演説＝現地通信社(2024年2月 9日)

【9日 ロイター】 -ロシアのショイグ国防相は9日、ロシア軍はウクライナにおける戦闘のほとんどの局面で成功を収めていると強調し、さらに活発な偵察作戦を行うよう呼びかけた。インタファクス通信が国防省の発表として報じた。

西部の軍司令官らとの会合で演説した。格拉シモフ軍参謀総長も同席した。



ロシアのショイグ国防相（写真）は9日、ロシア軍はウクライナにおける戦闘のほとんどの局面で成功を収めていると強調し、さらに活発な偵察作戦を行うよう呼びかけた。サンクトペテルブルクで昨年12月代表撮影、Sputnik提供（2024年 ロイター）（ロイター）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/aeb18493ea6be96af74aa3f64a509ba5ddb-d7ee1/images/000>

②ロシア前大統領、ウクライナ軍の新総司令官を裏切り者と批判(ロイター、2024年2月9日)



ロシア前大統領のメドベージェフ安全保障会議副議長は9日、ウクライナ軍の新たな総司令官に起用されたロシア生まれのオレクサンドル・シルスキー氏について、裏切り者だと批判した。ウクライナ大統領府提供(2024年 ロイター)(ロイター)

【モスクワ 9日 ロイター】 - ロシア前大統領のメドベージェフ安全保障会議副議長は9日、ウクライナ軍の新たな総司令官に起用されたロシア生まれのオレクサンドル・シルスキー氏について、裏切り者だと批判した。

ウクライナのゼレンスキー大統領は8日、同国軍のザルジニー総司令官の更迭を発表。後任に陸軍のシルスキー司令官を充てた。

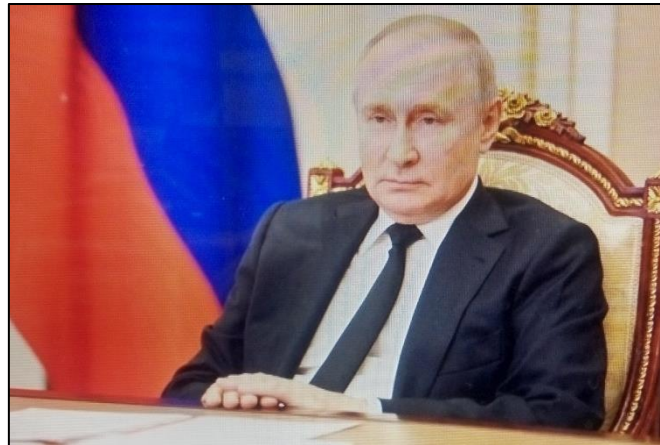
シルスキー氏は1965年7月に当時ソ連の一部だったロシアのウラジーミル地方で生まれ、同世代の多くのウクライナ軍関係者と同様、モスクワの高等軍事学校で学んだ。ソ連軍に5年間在籍し、1980年代からウクライナに住んでいる。ソ連崩壊後のロシア軍に在籍したことはない。

メドベージェフ氏はシルスキー氏が将校としての誓約を破ったと批判。「経歴を見ると、憎悪、軽蔑、嫌悪を感じる」とメッセージアプリ「テレグラム」に投稿した。

一方、ロシア大統領府のパスコフ報道官は、ウクライナ軍の総司令官が変わっても、紛争の結果が変わるとは考えていないと発言。記者団との電話会議で「特別軍事作戦の行方を変える要因になるとは考えていない」と述べた。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/fca17f2e4352c66677c564a24eff16d5d9a32b42/images/000>

③プーチン大統領「ロシアーウクライナ、近く合意に達するだろう」(中央日報、2024年2月9日)



ロシアのプーチン大統領は2年近く戦争中のロシアとウクライナが近く「合意」に到達すると述べた。

プーチン大統領は9日(日本時間)に公開されたタッカー・カールソン元フォックス(FOX)ニュースアンカーとのインタビューで「交渉を通じてウクライナ紛争を解決したいと思っている」と明らかにしたとRIAノーボスチ通信が伝えた。

プーチン大統領はロシアがウクライナとの交渉を決して拒否しているわけではないとも主張した。

また、プーチン大統領はロシアが外交ルートを通じてウクライナに対する武器供給を中断することを交渉の前提条件次元で米国に要求したと紹介した。

あわせてウクライナでロシアが敗れるのはあり得ないことだと話した。

プーチン大統領は、北大西洋条約機構(NATO)が2008年ウクライナに「扉」を開いたが、ここに同意できなかったと主張した。

プーチン大統領はロシアに拘禁された米国ジャーナリストの釈放のための合意に到達できると信じていると話した。

カールソン氏はトランプ前米国大統領と格別な親交がある極右指向の論客だ。

2022年2月24日ロシアのウクライナ侵攻で戦争が始まってから、プーチン大統領が西側ジャーナ

リストの単独インタビューに応じたのは今回が初めてだ。

今回のインタビューはカールソン氏の個人サイト(tuckercarlson.com)を通じて公開された。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/eeb5cf4720f3a7db9ca1d92e204f2cb42b7730a9>

④アウジーイウカ陥落は「時間の問題」 分析グループ、バフムートの轍踏むなど警告 (Forbes, 2024年2月9日)



破壊し尽くされたウクライナ東部の都市バフムート (Shutterstock.com) (フォーブス ジャパン編集部)

ロシアによる最初のウクライナ侵攻以来、ウクライナ軍は 10 カ月にわたってアウジーイウカで持ちこたえてきた。アウジーイウカは、現在はロシアの占領下にある州都ドネツク市から北西へ 8km ほどに位置し、ロシアによるウクライナ全面侵攻前には 3 万人あまりが暮らしていた都市だ。

だが、ウクライナ軍の守備隊は撤退すべき時が来たのかもしれない。ウクライナの調査分析グループ、フロンテリジェンス・インサイトは最新のレポートで、アウジーイウカは「陥落するかどうかではなく、いつ陥落するかの問題」になりつつあると評価している。

廃墟と化しているアウジーイウカに民間人はごく少数しか残っておらず、その人たちやペットも救助隊が市外に避難させる作業を進めている。だからといって、ウクライナ側はロシアによる 2022 年 2 月の全面侵攻後、23 カ月にわたりアウジーイウカを守備してきた第 110 独立機械化旅団を撤収させても、失うものがないということではない。

まず、ロシア側がアウジーイウカを攻め落とす、あるいはウクライナ側がアウジーイウカを守り抜くことには、プロパガンダ上の価値がある。ロシア側がアウジーイウカを取れば、来月に予定される見せかけの選挙での再選を前に、ウラジーミル・プーチン大統領は戦果として誇れるに違いない。

それだけではない。アウジーイウカには軍事上の価値もある。この戦争に関するロシアの主要な目的の 1 つは、アウジーイウカやドネツク市があるウクライナ東部ドネツク州の全域を支配し、ウクライナ側による州の解放を恒久的に阻むことにある。だからロシア軍はアウジーイウカのような州内の抵抗拠点を除去し、陣地や兵站を固めようとしているのだ。

ウクライナ側はアウジーイウカを保持することで、ドネツク州内を走る鉄道路線を脅かし、ロシア側にウクライナ東部各地への人員や装備の輸送で、効率の悪い別の手段の使用を強いることが可能だ

った。

だが、2000 人規模だった第 110 旅団の生き残った兵士がアウジーイウカを離れ、数 km 西にある強化された陣地に退却すれば、ウクライナ側がドネツク州を貫くロシア軍の補給線を脅かし続けるのは格段に難しくなる。そしてこれは、ロシア側がウクライナ東部の占領を固めることにつながる。

それでも、時が訪れたのかもしれない。第 110 旅団は 4 カ月にわたって、休むことなく勇敢に戦い続け、4 万人の兵士を投入したロシア軍に 1m 前進するごとに大量の血を流せてきた。増援に駆けつけた第 47 独立機械化旅団と第 53 独立機械化旅団が支援し、ドローン(無人機)や地雷、大砲、さらに第 47 旅団の場合は M2 ブラッドレー歩兵戦闘車の傑出した働きで市の南北両翼を防衛してきた。

⑤ プーチン大統領が米の武器供与を批判 西側諸国のメディア取材を受けるのは“侵攻後初”(O テレ News, 2024年2月9日)

ロシアのプーチン大統領は 8 日に公開されたインタビューで、「武器供与をとめれば数週間で戦争は終わるだろう」などと述べ、武器供与を続けるアメリカを批判しました。

プーチン大統領「かつて彼らは『ロシアの戦略的敗北、戦場での敗北を達成しなければならない』と叫び騒いでいた。私の考えでは、それは定義上不可能であり決して実現しない」

このインタビューはアメリカの保守系ジャーナリスト、タッカー・カールソン氏が行ったもので、プーチン氏が西側諸国のメディア関係者のインタビューを受けるのはウクライナへの侵攻開始後初めてです。

プーチン氏は武器供与を続けるアメリカを批判した上で、「もし本当に戦いを止めたいのであれば、武器の供与をとめろ。そうすれば数週間で戦争は終わるだろう」などと主張しました。

さらに、ロシアは自国の利益のために戦うが、「ポーランドやラトビアやほかの地域に興味はない」と述べ、ウクライナでの戦争を他の国に拡大する意思はないと述べました。

一方、ロシアメディアはこのインタビューで、プーチン大統領が NATO(=北大西洋条約機構)への加盟を断られた経緯など、自らの主張を語っている部分を大々的に報じています。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/60f417828cba9a68e896358158a894cf5320ee92>

⑥プーチン氏、NATO 侵攻を否定 ウクライナ停戦交渉の用意強調(2024年2月9日)

ロシアのプーチン大統領は 8 日に公開された米保守系ジャーナリストの単独会見で「ポーランドやラトビアに関心はない」と述べ、NATO 諸国への侵攻拡大の意図を否定した。ロシアはウクライナでの停戦のため話し合う用意があると改めて強調、ロシアとの交渉を禁じているゼレンスキー政権に圧力をかけるよう米国側に促した。

ロシア大統領府も 9 日に内容を公開。プーチン氏は、停戦実現には米国がウクライナへの武器供与をやめる必要があるとし「そうすれば交戦は数週間で終わる」と強調した。

東部・南部 4 州併合を認めた停戦は欧米には困難との指摘に「意思があるなら方法を考えればいい」とし、譲らない構えを見せた。

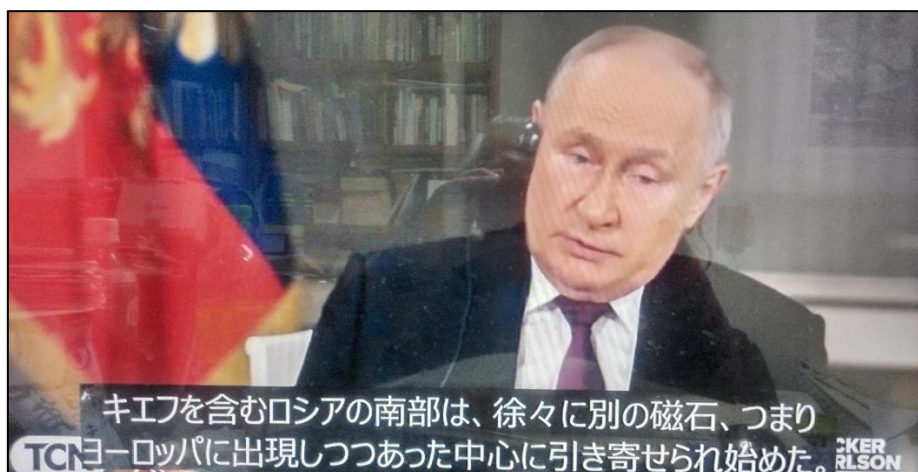


<https://news.yahoo.co.jp/articles/767a02bbc5a124f0a6c6e2ebfd2ccd49f03389b0/images/000>

⑦日本語全文字幕付きプーチン大統領インタビュー動画—その1(2024年2月10日)

※安齋注:出だしのタッカーの説明も面白いです。

<https://twitter.com/i/status/1756099572383072333>



<https://twitter.com/kinoshitayakuhi/status/1756099572383072333?s=09>

⑧タッカー・カールソンさんがプーチン大統領にロシアでインタビューをした動画を翻訳しました(2024年2月9日)

※安齋注:プーチン大統領が日本の報道で印象づけられてきたような「極悪非道な狂気の人」でも「がんで死にそうな人」でもないことは、少なくともわかるでしょうね。国の指導者として必要な政治・経済の問題に通じており、応用問題も解ける利発な人物らしいことは理解できるでしょうが、いかが？ 重要な映像です。

とても素晴らしい内容ですが YouTube と違いXでまとめて 2 時間以上投稿するより、重要な箇所を分けた方が見やすいと判断し先ずはインタビューの丁度後半に当たる部分です。
ノルドストリーム、アメリカ大統領、ブリックス。

<https://twitter.com/i/status/1755888942115865055>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1755888942115865055?s=09>

⑨トランプ前大統領の発言(2024年2月9日)

世界はとてつもない危険にさらされている。おそらく第三次世界大戦の危険にさらされている。そして、我が国には間違いなく至上最悪の大統領がいる。彼は誰とも交渉できない。彼が知っているのは世界中を爆撃し、無意味な爆弾を落とし、大量の人々を殺害する方法だけだ。

<https://twitter.com/i/status/1755649011598438504>



https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1755688096757133647?s=09

⑩イバン・フランコフスク・コスマツハ、TCC 代表者と地元住民との会合(2024年2月10日) ※TCC=ウクライナ軍登録・入隊局

地元住民 - 「戦争あるの？私たちが誰からの侵略を撃退しているのか理解していない！TCC 追

放、追放、追放」

国家機構が徐々に崩壊し、前線への動員を国民が拒否し、すでに動員された人々が前線から逃げようとしている、これが多くの人が絶えず書いていることである。

※投稿者コメント=もうすぐ爆発しそうな予感！

<https://twitter.com/i/status/1756222535090500046>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1756222535090500046?s=09>